

伝える部活

放送部部長

人の持つ声は皆同じではなく、そしてどの人が持つ声も魅力的だ。また、その声で思いを伝えられるのは、とても素晴らしいことだと思う。私は今回、NHK杯全国高校放送コンテストに朗読部門で出場した。大会は、マイクを通してその場での審査ではなく、録音データでの審査であったが、よい経験となった。



マイクを握る放送部 活動風景

全国への挑戦

男子バスケットボール部主将

私たち男子バスケットボール部は、37名で日々練習に励んでいます。短い練習時間ですが、お互いに切磋琢磨しながら、全国大会ベスト4を目標に努力しています。昨年はコロナ禍で、高校総体県予選も全国大会も実施されませんでした。今年は新潟県で開催予定の全国高校総体に出場することができます。



両部の部長さんに、部の紹介文と写真の提供をお願いしました。紹介の表現にそれぞれの個性を感じますね。

全国大会ではまず初戦を突破し、目標であるベスト4に近づけるように、最後まであきらめずに精一杯頑張ってきました。福岡可愛山同窓会の皆様方の御支援・御協力に感謝申し上げます。応援よろしく願いいたします。（編集部追記／寄稿後、新潟開催の全国高校総体では、残念ながら初戦敗退だったとのこと。三年生の諸君、後輩君達ともに体得したことをそれぞれの次のテーマに繋げて欲しいです。

寄稿文

同窓の絆を大切に充実した人生を…

代表顧問 新留 育郎（高17期）

人口減少と高齢化により働き方改革が進み、地球温暖化と自然災害により脱酸素社会に向けた取り組みが加速し、新型コロナによる巣ごもり・自粛生活で、私達の生活様式は大きく変わってきています。戦後、高度経済成長で世界に類を見ない発展を遂げた日本経済は、1990年代のバブル崩壊以降の【失われた30年】で成長は停滞し、特に若い世代の実質所得はバブル崩壊前から増えておらず韓国や中国に肩を並べられようとしています。企業では終身雇用制が見直され能力主義が重視されるようになり、加えて非正規社員のウェイトが高まり、賃金格差が拡大しています。

こうした変わりゆく社会情勢の中で、平均寿命と平均余命は伸びて人生100年時代を迎えています。私は今月、後期高齢者の仲間入りをしますが、残り25年、どこに生き甲斐を見つけ、充実した日々を過ごしたらいいのか？自問自答しています。今の所その結論は、この75年間、私を育て導き応援してくださった人・企業・故郷・社会のお役に少しでも立てるように、これまで培ってきた知見とノウハウ・技術に新しいものを取り入れて更に進化し、置かれた場所で、求められたニーズに誠心誠意、一生懸命に応えること。その傍らで、心身の癒しを求め、花鳥風月を愛で道端の草花にも心を寄せて楽しみを見つけること。

価値観や生活様式が大きく変わってきた社会で、それぞれの生き方や自己実現を貫くことはますます厳しくなってくるものと危惧しますが、そんな世の中だからこそ、人・同窓・同郷・社会との絆を大切にしながらお互いに交流を深め支え合っていくことが自分の人生を豊かにしてくれると信じています。牧田会長が、機会を捉え同窓の先輩方のご機嫌伺いに電話や自宅訪問されている姿を見て、福岡可愛山同窓会の存在意義を再認識しています。私も、「ありがとう そして keep on going」の精神で、同窓会を「拠りどころ」に、充実した人生を楽しみたいと思います。(2021.10.1)